**今後の公衆浴場に関する研究会　開催概要**

**■開催日及び場所等**

○令和５年１１月３０日（木） 　１０時～１２時、環境衛生課会議室

出席委員：明石委員、白井委員、水上委員

○令和５年１２月１日（金） １６時～１８時、ＷＥＢ開催

　　　出席委員：明石委員、川端委員、永井委員

**■委員からの主な意見**

○大阪府内の公衆浴場の現状について

・大阪市は労働者をはじめ公衆衛生確保のため、銭湯の設置に力をいれていたので、銭湯が多くなっている。

・銭湯の壁に富士山の絵（ペンキ絵）があるのは関東に多く、大阪にはタイル張りが多いのが特徴。

○今後の公衆浴場に期待できる役割

・大阪府がアスマイルを活用した銭湯イベントを実施しているが、今後の利活用の方向性の検討や、事業の効果評価のために、蓄積データを活用して、利用者の属性や健康状態などとの関係性を分析してはどうか。（例：普段銭湯に通っている人が参加したのか、新規参加者の掘り起こしになっているのか。高血圧者や独居者の銭湯利用ニーズの検討等）

・銭湯が残っている地域は偏在しているため、一律ではなく、地域の特性や人口の構成などに応じた取組が必要。

・銭湯利用者は高齢者が多いので、高齢者の健康に寄与している施設と考えられる。今後の地域での活用にも、介護予防など高齢者向けのサービスと、若者向けのサービスの両方が必要と考えられる。

・経営環境が厳しい中、アイディアで経営改善している事例がある。例えば、東大阪市の「ＳＥＫＡＩ　ＨＯＴＥＬ」との連携や、ロビーでの音楽イベント、様々なクラフトビールの販売、ランナーズ銭湯、地域の大学生とのコラボイベントの開催など。

・浴場組合では、組合ＨＰでの取組のＰＲや様々なイベントなどが行われているが、十分知られていないように思う。

○研究会の今後の進め方

（事務局から、次回は営業者や市町村等との意見交換を行うこと、また、利用者等のアンケート調査を実施予定であることを説明）

・調査にあたっては、その地域に高齢者の世帯が多いかなど、地域特性を把握しておくほうがよい。

・回答方法をネットに限定すれば、ネットの利用ができない方が対象から漏れる。紙での回答もできるように工夫してほしい。

・ＳＮＳの利用状況を調査する場合には、Facebookの利用者は比較的年齢が高く、若者が少ないなど、利用者の年代などに差があるので、ＳＮＳの種類も聞いたほうがよい。

・利用者や営業者のアンケートに「自由記述欄」を設ければ、利用した感想や意見、事業実施で考えていることなどを具体的に把握できると思う。